

この本は、全三冊で構成される「入試現代文へのアクセス」シリーズの第一冊目『基本編』である。

「入試現代文へのアクセス」という表題は、

きちんと筋道を通して、入試現代文の正解に迫るアクセスすること

を意味する。

三冊とも、できるだけ少ない負担で正解への確かな筋道を見だし、入試現代文をのりきる力を養成できるように、「わかりやすさ」と「使いやすさ」を重視し、細心の注意を払って編集されたものである。特にこの『基本編』は一九九三年の初版刊行時から大変な反響を呼び、入試現代文学習に欠かせない問題集として受験生の絶大な支持を獲得してきた問題集である。

本書だけでも、入試現代文に必要な基本は身につくように作られているが、さらに高度な力を身につけたという諸君は、ぜひ『発展編』、さらには『完成編』にもチャレンジしてほしい。

本書は特に次のような諸君に最適である。

- I 現代文の成績がよくないしどう取り組めばいいのかわからない。
- II 現代文の成績は悪くないが、明確な方針が立たず、入試に向けて不安だ。
- III 今までいろいろな参考書や問題集に取り組んだがうまくいかなかった。
- IV ともかく早めに現代文の入試に向けて基礎学力をつけてしまいたい。

▽▽▽ 本書の5つの特徴

① **本文と設問のわかりやすい解説。**文章を読む力を養うための「**本文の解説**」と、それに即した解答の仕方（**設問の解説**）で、わかりやすく示すことに全力をつくした。

② **きめ細かな語句解説。**現代文特有の用語の意味がわからずに苦しんでいる諸君のために、本文に出てくる重要語について、各本文の後に「**語句の意味**」を示し、最重要語は「**現代文のキーワード**」として掲げ、詳しく解説した。

③ **基本的な読解のポイント**（**読解へのアクセス**）。文章をどう読めばいいか、文章の全体像をつかむにはどうすればいいのか、わからない諸君のためにそのポイントを「**読解へのアクセス**」という形で示し、文章への具体的な取り組み方を明らかにした。

④ **解法のポイント**（**正解へのアクセス**）。設問への取り組みに苦勞している諸君のために、別冊子の「**設問の解説**」の中でも、同じく基本的な解法のポイントを「**正解へのアクセス**」という形で示し、ていねいに解説した。

⑤ **幅広い読解力に結びつく文章選択。**文章も、多様な分野から比較的新しく面白いものを載せることを心がけ、総合的な読解力が養成されるように配慮してある。

▽▽▽ 本書の構成

特に使いやすさを意識して、次のような構成にした。

◆ 本書は前半の**例題四題**で本文の読み方の基本を確立し、後半の**練習問題十二題**（**ステップ1六題**＋**ステップ2六題**）で実践的な読み方と問題の解き方を身につけていく構成をとっている。練習問題は、徐々に難しい文章に対処できるように工夫してある。

◆ それぞれの問題は、まず**本文と設問**があり、次に**〔語句の意味〕**と**〔本文の解説〕**が続いている。（本文＋語句の意味＋本文の解説）を結びつけて学習することが重要である。

◆ それぞれの**設問の解答と解説**は、別冊子にしてある。問題を解いていく途中や、本文と**〔本文の解説〕**を検討している時に、安易に解答が目に入らない方が、落ち着いて取り組めるからである。

◆ **〔読解へのアクセス〕**・**〔正解へのアクセス〕**は、あとからフィードバックして確認しやすいよう、通し番号をつけ、チェックしやすいように、**巻末に一覧表**もつけてある。

◆ **〔語句の意味〕**は、本文での意味を重視して、簡潔な説明をこころがけた。また特に現代文読解のうえで重要な頻出語句は**〔現代文のキーワード〕**として掲げ、ていねいに語句の意味と使われ方を解説しておいた。さらに、解説された語句すべてについて、単語集のような使い方もできるように、**巻末に索引**をつけてある。

練習問題 ステップ1

- 第一問 「私にわかっていることは」 沢木耕太郎……………52
- 第二問 「ことばの本性」 梁島謙三……………60
- 第三問 「イギリスの訓え」 山本雅男……………70
- 第四問 「複雑系の意匠」 中村量空……………84
- 第五問 「マンネリズムのすすめ」 丘沢静也……………94
- 第六問 「ノルウェイの森」 村上春樹……………104

練習問題 ステップ2

- 第七問 「安全学」 村上陽一郎……………116
- 第八問 「子ども観の近代」 河原和枝……………126
- 第九問 「仮説の文学」 安部公房……………138
- 第十問 「二十一世紀の資本主義論」 岩井克人……………150
- 第十一問 「子規からの手紙」 如月小春……………160
- 第十二問 「ダイヤモンドダスト」 南木佳士……………172
- ★ 読解へのアクセス一覧……………185
- ★ 語句索引……………186

● 読解へのアクセス

次に、この文章を読むうえでの重要なポイントを二つほどあげておこう。

① 読解へのアクセス①

本文の全体構造を意識しよう

この文章の場合、段落構成が次のような明確なかたちになっている。

- ・①……………序論。二つの教室の環境の違いが生徒の「行動様式」に影響を与える、ということの指摘。
- ・②・③……………「第一の教室」における生徒の「行動様式」の説明。
- ・④以降……………「第二の教室」における生徒の「行動様式」の説明。

ただ漫然と読まず、このような本文の流れ・構成を把握するように心がけてみよう。ただし、どんな文章もこのようなわかりやすい構成になっているわけではないという点にも、

注意してほしい。

② 読解へのアクセス②

対比関係に注目しよう

私たちは、あるものの特徴や本質を明らかにしようとするとき、そのものと、他の対照的なものとを比較するということを、しばしば行なう。たとえば、日本とはどのような国かということを考えるとき、日本のことだけを見ていても、それはなかなかわからない。ところが、外国と比べることによって、日本という国だけがもっている特質などが明確に見えてくる。また、自分について考えるとき、私たちは、他人と自分のことを比べることによって、自分の特質を明らかにしようとする。これらが「対比」である。

一般に、文章の筆者は、このように、二つの概念を「対比」させて論じるということを頻繁に行なう。当然、この「対比」関係に注目するということが、文章読解のうえで大きな手がかりになるのである。

今回の本文では、いうまでもなく「第一の教室」と「第二の教室」とが対比されているのである。これを整理すると、次のページのようになる。